

「農福連携全国フォーラム 2022 in 石巻」 開催報告書

■ 開催趣旨と主な内容

障害者等が農林水産物の生産や加工に携わる農福連携は、障害者等、農業者、そして地域の抱える課題を解決する新たな取組であり、その広がりが期待されています。政府は、農福連携等に取り組む主体を 2024 年度までに新たに 3,000 創出することを目標とする「農福連携等推進ビジョン」を策定しています。この農福連携の取組の更なる推進と充実を図るため、農福連携を推進する関係省庁にもご参加いただき、以下の内容の「農福連携全国フォーラム 2022 in 石巻」を開催しました。

- 農福連携は、福祉（障害者等）と農林水産業の課題の解決に資するだけでなく、地域の活力の向上にもつながるものであり、東日本大震災の被災地となった石巻で、農福連携を活かした地域づくりのための情報発信を行いました。特に、農福連携の推進に当たって、農福連携によって誕生している特色ある産品・商品をどううまく販売に結びつけ、障害者等の所得の向上に結び付けていくかということが一つの重要な課題となっていることにも鑑み、「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進」をテーマに掲げ、基調講演、事例発表、パネルディスカッション等を内容とするフォーラムを開催しました。
- フォーラムのテーマである「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進」に関して、先進的な取組を現地において見学し、意見交換を行うスタディツアーを開催しました。
- フォーラムのテーマである「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進」の実践版として、農福連携関連商品の展示・販売を通じて、農福連携に対する理解の増進を図るため、農福連携事業者等による全国農福関連物産展を開催しました。

■ 日時、場所及び参加者等

○ フォーラム

日 時：令和 4 年 11 月 22 日（火）9:30～17:45

場 所：石巻市防災センター 多目的ホール（メイン会場）

石巻市役所 402 会議室（サテライト会場）

市民サロン横会議室（サテライト会場）

参加者：約 200 名（Web 視聴、登壇者及びスタッフを含む。）

○ スタディツアー

日 時：令和 4 年 11 月 23 日（水）10:00～11:40

訪問先：社会福祉法人 イシノマキ・ファーム

参加者：37 名（スタッフを含む。）

○ 全国農福関連物産展

日 時：令和 4 年 11 月 22 日（火）11:00～16:00

令和 4 年 11 月 23 日（水）10:00～15:00

場 所：石巻駅前にぎわい交流広場

参加事業者：24 事業所

※ いずれも、当初、令和 4 年 8 月 25 日（木）及び 26 日（金）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況のため、延期しての開催となりました。

■ 主催者等

1 主催

一般社団法人 日本農福連携協会

2 協賛

アイシーエス姫路市ウェルフェアー 株式会社、いしのまき農業協同組合
株式会社 伊藤園、伊藤忠テクノソリューションズ 株式会社
株式会社 エススリーブランディング、エフピコダックス 株式会社
持続未来 株式会社、積水ハウス 株式会社、全国共済農業協同組合連合会
全国農業協同組合連合会、辻・本郷 税理士法人
公認会計士・税理士 中本行則事務所、農林中央金庫
公認会計士・税理士 林光行事務所、弁護士法人 三ツ星、株式会社 夢育て
株式会社 ライフパス

3 協力

社会福祉法人 石巻祥心会、一般社団法人 イシノマキ・ファーム
社会福祉法人 夢みの里

4 後援

法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、宮城県、石巻市
社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国社会就労センター協議会（セルプ協）
公益財団法人 日本知的障害者福祉協会、農福連携特例子会社連絡会

フォーラム

「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進」をテーマに掲げ、石巻市防災センター多目的ホールをメイン会場とし、他に2か所サテライト会場を設けて、以下の内容でリアルにより実施したほか、Web配信も実施しました。

○ 開会挨拶

一般社団法人 日本農福連携協会の皆川 芳嗣会長理事が、開催の趣旨等を含めて開会の挨拶を行いました。



皆川会長理事の開会挨拶



開会挨拶を行う皆川会長理事と
会場の様子

○ 来賓挨拶

村井 嘉浩宮城県知事にビデオメッセージによりご挨拶いただくとともに、会場にご臨席を賜った来賓の皆様を代表して、坂本 修東北農政局長及び齋藤 正美石巻市長から、ご挨拶をいただきました。



村井宮城県知事のビデオメッセージ



坂本東北農政局長の来賓挨拶



齋藤石巻市長の来賓挨拶

○ 行政施策説明

農福連携に関係する以下に掲げる4省庁の責任者が、農福連携に係る状況や推進施策等について説明を行いました。

- ① 農林水産省 農村振興局 佐藤 一絵 農村政策部長
- ② 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 津曲 共和 障害福祉課長
- ③ 法務省 矯正局 谷口 哲也 更生支援管理官
- ④ 法務省 保護局 杉山 弘晃 更生保護振興課長
- ⑤ 文部科学省 初等中等教育局 山田 泰造 特別支援教育課長



農林水産省佐藤農村政策部長
による説明



厚生労働省津曲障害福祉課長
による説明



法務省谷口更生支援管理官
による説明



法務省杉山更生保護振興課長
による説明



文部科学省山田特別支援教育課長
による説明



メイン会場の様子



サテライト会場の様子

○ パネルディスカッション ①

一般社団法人 日本農福連携協会の皆川 芳嗣会長理事がコーディネーターを務め、行政施策の説明者に加えて、

- ① 全国社会就労センター協議会 阿由葉 寛 会長
- ② 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 井上 博 会長
- ③ CTCひなり株式会社 渡邊 香織 代表取締役社長

をパネリストとして、「持続可能な共生社会の創生に向けて～農福連携の推進を通じた横断的な関係構築」をテーマに実施しました。

主な内容は、以下のとおりであり、コーディネーターの「「ノウフク号」が未来に向けてうまく船出できるようにしよう。」との言葉で締めくくられました。

- ・ 特別支援学校が農福連携の分野にもっと入ってくることの重要性
- ・ 障害者が働くに当たっての課題と今後の展望
- ・ 特例子会社の活動に対する親会社の評価
- ・ 食料・農業・農村基本法の改正に当たっての農福連携の位置づけ
- ・ コーディネーター育成の重要性
- ・ 2030 年に向けてのノウフクの夢



全国社会就労センター協議会
阿由葉会長による説明



公益財団法人日本知的障害者福祉協会
井上会長による説明



CTCひなり株式会社
渡邊代表取締役社長に
よる説明



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションに聞き入る
参加者

○ 基調講演

以下の方々が、農福連携の推進に係る基調講演を行いました。

- ① 日本郵便 株式会社 経営企画部 關 祥之 サステナビリティ推進室長

演題：農福連携と郵便局のサステナブルな連携を目指して

- ② 全国社会就労センター協議会 齊藤 公生 顧問

演題：何が障害者福祉か？を考える



日本郵便株式会社關サステナビリティ
推進室長による基調講演



全国社会就労センター協議会
齊藤顧問による基調講演

○ 事例発表

以下の方々が、農福連携に係る優良事例の発表を行いました。

- ① 高知県 安芸福祉保健所 健康障害課 公文 一也 主幹

演題：～誰もがしあわせになる「農福連携ケアシステム」～安芸地域の農福連携の歩み

- ② 社会福祉法人 石巻祥心会 くじらのしっぽ 阿部 かよ子 管理者

演題：大好きなこの町で暮らすこと～in 牡鹿半島～

- ③ 社会福祉法人 夢みの里 就労継続支援センター桜・さくら 大場 雅彦 副主任 及び
社会福祉法人 夢みの里 ブルーバードインターナショナルプリスクール 木村 朗美 園長

演題：食育を支える農福連携



高知県安芸福祉保健所
公文主幹による事例発表



くじらのしっぽ阿部管理者
による事例発表



就労継続支援センター桜・さくら
大場副主任 及び
ブルーバードインターナシヨナ
ルプリスクール木村園長による
事例発表

○ パネルディスカッション ②

一般社団法人 日本農福連携協会の村木 厚子副会長理事がコーディネーターを務め、事例発表を行った公文 一也主幹に加えて、

- ① 社会福祉法人 石巻祥心会 宍戸 義光 理事長
- ② 社会福祉法人 夢みの里 菅原 桂子 理事長
- ③ 一般社団法人 日本農福連携協会 農福連携事業所の評価方法の調査・分析事業
高草 雄士 サブマネージャー
- ④ 東海大学 文理融合学部 経営学科 濱田 健司 教授 (Web 参加)

をパネリストとして、「農の広がり、福の広がり、すべての人が生きがいを持てる社会づくり～より良い農福連携のあり方を考える」をテーマに実施しました。

「異なるものがつながることが重要である。同じ分野での努力は足し算であるが、農福の魅力は掛け算である。」とのコーディネーターの発言を受けて、以下のようなことが議論されました。

- ・ 関係者とワイワイの関係を作る方法やそのヒント
- ・ 農業の生産性の低さ等を克服して農福連携を進める工夫
- ・ 自治体の関わり
- ・ 「いい農福」と「悪い農福」の違いと、「いい農福」になるために必要なもの
- ・ 将来の夢



社会福祉法人石巻祥心会
宍戸理事長による説明



社会福祉法人夢みの里
菅原理事長による説明



農福連携事業所の評価方法の
調査・分析事業高草サブマネージャーによる説明



Web で参加した東海大学
濱田教授の説明



パネルディスカッションの様子



メイン会場の様子

○ 閉会挨拶

一般社団法人 日本農福連携協会の村木 厚子副会長理事が、参加者へのお礼を含め、閉会の挨拶を行いました。



村木副会長理事の閉会挨拶

スタディツアー

フォーラムのテーマである「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進」に関して、先進的な取組を実地に学ぶため、クラフトビールの製造・販売、ファームステイによる就農者の学びの場の提供等に取り組んでいる一般社団法人 イシノマキ・ファームを訪れ、同法人の高橋 由佳代表理事から施設の説明を受けた後、サツマイモ圃場において、中間的就労支援として若者の自立支援を行っている様子を見学しました。また、ホップ圃場の様子と育成作業の工程等の説明を受けた後、「石巻・川のビジターセンター」の会議室に移動し、取組の特徴や課題、今後の展望等について意見交換を行い、最後に一般社団法人 日本農福連携協会の皆川 芳嗣会長理事がお礼の挨拶を行って終了しました。

参加者からは、

ア 時間が少ない中、充実した内容であった。

イ 視察先としてとても素晴らしかった。

といったような感想が聞かれました。



イシノマキ・ファーム入口



イシノマキ・ファームでの事前説明



サツマイモ圃場での説明



ホップ圃場での説明



石巻・川のビジターセンター
での質疑応答

全国農福関連物産展

フォーラムのテーマである「持続可能な取組に向けて～地域づくりと販路拡大の取組の推進の実践版として、石巻駅前にぎわい交流広場に会場を設けて、以下に掲げる24の事業者の参加の下、それぞれが生産、加工等を行った自慢の農福連携商品の販売が行われました。

石巻駅前で開催したこともあり、家族連れをはじめ、沢山の人が訪れ、盛会のうちに終了しました。

出店事業者	主な販売品目
特定活動非営利法人 あおぞら	クレアミスト（ハーブの消臭スプレー）、化粧品（虫よけ効果のあるミストとバーム、ハーブのバーム）
社会福祉法人 青葉仁会	焼き芋、アイスクリーム
社会福祉法人 旭川春光会	馬鈴薯、じゃがバター
社会福祉法人 石巻祥心会	バームクーヘン、野菜、牡蠣飴
稲井大仏寺崎	野菜（ブロッコリー、大根、白菜、ニラ、ジャガイモ、サツマイモ）、肥料（籾殻、燐炭）、米（ひとめぼれ）
社会福祉法人 岩見沢清丘園	キジ肉ブロック、キジ肉づくし、グラタン
株式会社 ウイズファーム	リンゴ、リンゴジュース
社会福祉法人 北ひろしま福祉会	蜜蝋
JAいしのまき	せり鍋、焼肉のタレ、ソイマヨネーズ、炊飯バック
社会福祉法人 清水旭山学園	山わさび、十勝産ゆできび、十勝産コーンバター、十勝産かぼちゃ団子串
社会福祉法人 白鳩会	フランクフルト、Green tea、India pale ale（クラフトビール）
社会福祉法人 新生会	鮭とば（塩、みりん）、鮭とば燻製
社会福祉法人 空知の風	Tシャツ等（サンプル）、肉巻き棒、肉巻きおにぎり、ロールケーキ、スイーツポテト
社会福祉法人 鷹栖共生会	パウンドケーキ（大、小）、クッキーセット
社会福祉法人 伊達コスモス21	黄金豚肉まん、黄金豚肉まん（チーズ、オニオン、あずき）、冷凍スープ（トマト、ジャガイモ、南瓜、トウモロコシ）
社会福祉法人 東京リハビリ協会	活あわびの網焼き
社会福祉法人 ナザレの村	まこも天うどん、ぶっかけうどん、カレーうどん
社会福祉法人 新冠はくと園	日高昆布、醤油の素、三升漬、包装資材パンフレット、北海道日高産干魚（ほっけ、鯉、きんぎ、鯖、オイランガレイ、イカ）、半熟チーズケーキ3種
社会福祉法人 美深福祉会	トマトジュース
社会福祉法人 北海道光生会	縫製製品（バック、サンプル）、精米、米ざんぎ
宮城県知的障害者福祉協会	日知協の東北ブロック6県（青森、岩手、秋田、山形、福島、宮城）の産物を使った商品（いぶりがっこ、ジャム、ハーブ入りオリーブ油、ドレッシング、カレー等）、宮城県産の里いも等の旬の野菜
社会福祉法人 雪の聖母園	切干大根、南瓜（栗ロマン）
社会福祉法人 夢みの里	パン、サツマイモ
株式会社 リツワ	ワイン、米、野菜セット、モミガライト



様々な農福連携商品の並ぶ出展ブース



キッチンカーも登場



にぎわい会場



販売されている農福連携商品

■ メディア掲載

終了後、多数のメディアで「農福連携全国フォーラム in 石巻」についてご紹介いただきました。

○ 日本農業新聞(2022年11月23日(水))

○ 河北新報(2022年11月23日(水))

[illegible][illegible]

○ 農経しんぽう(2022年11月28日(月))

○ 福祉新聞(2022 年 12 月 6 日(火))

[illegible][illegible]



日本農福連携協会

一般社団法人 日本農福連携協会

160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-1 パークウエスト 5F

T E L: 03-5323-3633

U R L: <https://noufuku.or.jp>

メール: info@noufuku.or.jp